

NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター アイデア

2015

11月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～合唱のまち一関と地域づくり～
- 4 | 団体紹介～布佐神楽保存会～(川崎)
- 5 | 地域紹介～千厩町奥玉 天ヶ森自治会～(千厩)
- 6 | 企業紹介～株式会社 フリーデン 大東農場～(大東)
- 7 | センターの○○～月初会議ではこんなことを話し合っています～

フタコ×ミコト 第18回 二言三言 27/122,919

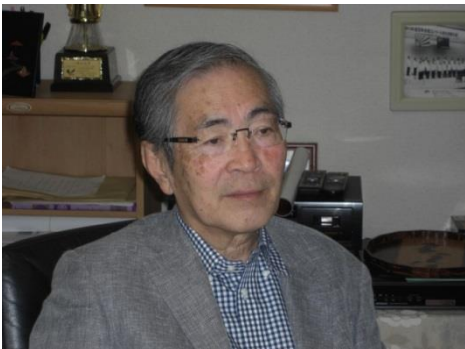
合唱のまち一関と地域づくり

対談者 一関合唱連合会 会長 阿部興起 さん

聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

音楽との出会い それは交響曲「新世界」から始まった

【小野寺】このたびは一関合唱連合会（以下「連合会」）が今年度の一関文化賞を受賞されることになりおめでとうございます。阿部さんは駅弁のあべちうの社長さんで食品関係に関わりが深い方と認識していました。現在、連合会の会長を務められていますが、阿部さんと音楽との出会いについてお聞かせください。



一関合唱連合会 会長
阿部 興起 さん

【阿部】父がバイオリンを弾き室内楽をやっていた関係で、小さい頃から音楽に触れる機会は多かったと思います。私が中学校3年生、昭和28年頃かと思うのですが、父たち数人が企画した近衛秀磨指揮によるABC交響楽団の演奏会が旧一関小学校講堂（当時、現在の一関文化センターの敷地内にあった）で行われました。その時聴いたドボルザークの新世界の演奏に衝撃を受けました。昼と夜の2回聴いたのですが、世の中にこんなすごいものがあるのかと思いました。今から60年も前に、当時日本を代表する交響楽団がこの一関で演奏したんですね。この体験が音楽との出会いになり、音楽がますます好きになりました。

【小野寺】楽器は何かやられるのでしょうか。

【阿部】楽器はやりません。全日本合唱連盟を訪れた際、副理事長の辻正行先生に「阿部さん声楽家ですか」と問われ、「私は一ノ関駅の駅弁屋です」と答えたら「それで声を通るんだね」と言われたんです。以前からお前の声は通ると言われていたのが、日本を代表する大先生にいい声していると褒められたものだからますますその気になってしまいました。

【小野寺】面白いエピソードですね。ところで、連合会はどのような組織なのでしょう。

【阿部】連合会は、昭和56年に創立され、今年で34年目になります。市内で個々に活動している合唱団やサークルを一つにまとめた組織を作り、お互いに連携し合い市内の合唱レベルを向上させることを目的に始まったものです。現在、連合会に加入しているのは、社会人団体だけで20団体で、およそ300人の団員が合唱活動を続けています。

【小野寺】20団体も加盟している連合会ですが、どのような活動をしているのでしょうか。

【阿部】古い話になりますが、平成5年に第8回「国民文化祭」の合唱部門が一関で開催され、その中心が連合会で盛会の内に終え使命を無事果たすことができました。また、平成9年に「世界青少年合唱団」の日本公演がありその運営に協力しましたが、公演は全国8カ所で東京以北では一関だけで、世界の歌声が一関に高らかに響きました。この頃から合唱の盛んなまちと言われるようになりました。

しかし、一番大事にしているのは市民による合唱活動です。今年で41回目となる「一関合唱祭」は市民に親しまれ定着しています。29回目の「コーラスいわいフェスティバル」は合唱を通じて一関と東磐井地方の方々との交流を深めており、会場は一関と東磐井で交互に開催しています。さらに、26回目の「東日本合唱祭」の運営にも協力しています。そして、3年に1度の「いちのせき第九演奏会」の運営を行い、演奏会の合唱団は連合会の会員が中心となります。また、「社会福祉施設や被災地への合唱訪問」も行っています。各団が関係施設などに出向き、合唱慰問を行い共に歌い、合唱で触れ合い楽しいひと時を過ごしています。

合唱のまち一関 源流は第九演奏会

【小野寺】一関市が「合唱のまち一関」と言われています。このように言われるようになった由来については何かあるのでしょうか。

【阿部】私が30歳代の40数年前の頃、市内の同年代の仲間たちと年に一度文化事業をしようと「創友会

（そうゆうかい）」という会を作って活動していました。そうしてだんだんと文化活動にのめり込んでいき、N響、都響、仙台フィルの公演を一関で開催してきました。その一つが第九演奏会の開催。今から41年前の昭和49年に県内初の第九演奏会を一関市で開催し、その第九の合唱団員を市民から募集したところなんと300人も集まりました。その後、参加した団員を中心として市内に多くの合唱団が生まれ広まってきました。それが「合唱のまち一関」の始まりになっているのだと思っています。

【小野寺】「合唱のまち一関」のいわれが41年前の第九演奏会から始まったのですか。ところで、東日本合唱祭が10月に開催されますね。

【阿部】東日本合唱祭は平成2年に始まり今年で26回目になります。一関に全国トップレベルの合唱団を招へいして合唱祭を開催したいという声が高まり、当時の市社会教育課奈良井課長、大畑孝夫先生と私の3人で文化庁を訪問したのですが、あまり良い返事はもらえませんでした。その後、全日本合唱連盟を訪れたところ、理事長さん始め三役揃って迎えていただき、「行政と民間が一緒になって合唱祭を行うことは素晴らしいことで、日本ではないのでぜひ開催を応援しましょう」と話が進み、文化庁との間に入ってもらう開催が実現しました。当時の連盟副理事長の辻正行先生が東日本合唱祭の担当となり、以後毎年続けて開催しています。

【小野寺】東日本合唱祭が年々レベルアップして今年で26回目になり、一関の大きな文化事業になってきたと思います。合唱祭の特色をお聞かせください。

【阿部】行政と民間が一緒になってスタートして、それが市民とともに育ててきた合唱祭で、「合唱のまち一関」が定着するきっかけにもなっているでしょう。これには市内の合唱団も必ず出場し、全国トップレベルの合唱に触れる機会になります。最後の舞台では400名を超す壮大な合同合唱を行います。今までに日本を代表する200を超える合唱団、8000人の方々が市民と共に歌い、合唱の素晴らしさ、楽しさを共にしています。そしてもう一つ素晴らしいことは、演奏会の前日に市内の中学校1校に招へいの1団体が訪問して中学生との合唱交流を行っています。共に歌い楽しいひと時を過ごすことで合唱レベルの高揚につながっているものと思っています。

これらの活動が評価され、平成7年（1995年）に全日本合唱連盟から表彰を受けています。

合唱を通して住み良いまちをつくりたい

【小野寺】市民と合唱との結びつきをどのように感じていますか。

【阿部】市内に合唱活動が広がり、中学生、高校生、社会人ともに市内の様々な合唱活動を通じて合唱レベルが向上してきていることは確かです。「いちのせき第九演奏会」の合唱には高校生も参加できます。3年に1度の開催になりますが高校時代に一度は参加できる特典だと思います。また、日本では最高の権威と

言われる「全日本合唱コンクール（全日本合唱連盟・朝日新聞社主催）」が毎年行われていますが、その地区予選会の中で最も難関と言われるのが東北大会です。福島県勢のレベルが高いのですが、その東北大会を突破し、全国大会に出場を果たし、金賞、銀賞を勝ち取る一関の中・高生や社会人も出てくるようになりました。大変喜ばしいことです。



【小野寺】私どものいちのせき市民活動センターでは若い世代を対象にしたワークショップも行っています。「一関はどんなまちですか」という問いに対して、「餅」はよく出てくるのですが、「合唱」はなじみが薄いように思います。合唱活動から見える一関の課題はどうお考えでしょうか。

【阿部】ステージで発表する以外の普段着の合唱があってもいいのではないかと思います。例えば、街角コンサートを駅前や大町通りで行うのはどうでしょう。道行く人たちが合唱に足を止めて聴き、そして一緒に口ずさむ。それこそ合唱のまちにふさわしい光景ではないのかと思います。さらに俗っぽくなりますが、夏の夕方家の風呂に入って歌を歌う。その時通りを歩いてきた人が一緒にハモってくれるようになる。そんな合唱のつながりができるのも楽しいのかなと思っています。

【小野寺】楽しい光景が目に見えてきます。最後に、今後の抱負についてお聞かせください。

【阿部】一関は「合唱のまち一関」と言われるぐらい合唱活動の盛んなまちになりました。確かにたくさんの合唱団があり、毎年レベルの高い合唱祭なども行われ定着してきました。これからは合唱愛好者だけでなくすべての市民が合唱を愛し、合唱のまちにふさわしいきれいなまち、心豊かな人々が集うまち、そして、住み良さで日本一のまちになることを願っています。



東日本合唱祭 合同合唱の様子（昨年）

基本情報

【一関合唱連合会】

住所：〒021-0891 一関市桜木町4-5

TEL：0191-23-7283（阿部会長自宅）

団体 紹介



会長 千葉仁一さん

～基本情報～

- ◆会 長：千葉仁一さん
- ◆連絡先：〒 029-0201
一関市川崎町門崎布佐 109
- ◆電 話：0191-43-2767

神楽は宝 地域の文化遺産を大切に守っていききたい

一関地方は南部神楽の盛んな所で、現在も市内各所で演じられています。そのうちのひとつ川崎町門崎の布佐神楽は、平成 25 年に岩手県無形民俗文化財の指定を受けて活動を続けています。今回、保存会の会長である千葉仁一さんにお話を伺いました。

幼年期に始まる神楽との出会い

「布佐神楽は、岩手県南部や宮城県北部に広く分布する南部神楽の流れをくんでいます。文久 3 (1863) 年に隣村の相川村 (現在の一関市舞川) から伝承されたもので、150 年以上の歴史があり川崎地域唯一の郷土芸能になります」と千葉さんは語り始めます。資料によると、南部神楽の発祥地と言われるのが一関市萩荘地区の自鏡山。舞手自身が声高らかにセリフを述べる点が南部神楽の最大の特徴とされ、「セリフ神楽」と言われるゆえんです。

この地区では、幼年期から神楽に触れる機会が多く、踊る所作や太鼓の響きに自然に親しんでいくそうです。千葉さんも「私は祖父が神楽をやっていたので、小学校に上がらない頃から練習場所に見に行き自然に覚えるようになりました。本格的に練習するようになったのは高校生からで、後継者育成のために初代会長さんから太鼓を教えてもらいました」と当時を振り返ります。当時は村の教育委員会も保存活動に積極的で、ビデオを撮り記録を残してくれたそうです。

集落全体で支える保存会活動

保存会は、地域に伝わる布佐神楽と獅子舞を永久に保存することを目的に、昭和 47 年に結成され今年で 43 年目を迎えています。「結成前にも神楽連中 (以下、連中) という組織で長い間活動していましたが、後継者不足で一時期途絶えそうになりました。布佐から神楽を無くしてはならないと集落内が危機感を持ち、全世帯がまとまって保存会を作った経緯があります」と千葉さん。連中には、現在 16 人が加入し、最年少は 35 歳で、ほとんどは 40 代から 60 代の人達です。

伝承活動として、地元の小学生たちは 1 月から 4 月

までの毎週土曜日夕方に練習を行っています。連中の人達は子供たちの練習が終わった後の時間帯に練習しますが、2 月末からは毎日のように練習が続きます。練習会場となるのは集落内にある布佐神楽伝承館。ここは元の布佐公民館の建物で、公民館が別の場所に建て替えられたのを機に神楽伝承館として使うようになりました。「冬の時期に集中的に練習を行います。日により練習演目が違うので連中は代わりますが、練習場所が家の隣ですし私は太鼓の役なので、毎回欠かさず練習に出ています」と千葉さんは笑います。

昔からの型を守り伝統を引き継ぐ

「布佐神楽の演目はかつて 50 ほどあったそうですが、現在は 20 位を演じています」として、「布佐神楽の特徴は、手足の振りにある」と語る千葉さん。式舞いを型通りに残して引き継ぎ、崩すことなく伝わってきているそうです。神楽の基本は御神楽 (みかぐら) と言われる (他では鶏舞いと言う所もある) もので、他の演目に応用できる基本的な動きが入っているので、この御神楽を大事にして練習していると語ります。

布佐神楽は地元の熊野神社や伊吹神社の春と秋の例大祭で奉納するほか、地域の祭事や神楽大会などにも参加します。特に毎年 4 月 29 日の熊野神社での例大祭の後には、川崎農村研修センターを会場に布佐神楽発表会を行っています。子供たちそして連中が神楽を演ずる日で、地元の人達はもちろんよそからもたくさんの人たちが見に来る保存会最大のイベントになります。「布佐神楽は地域の文化遺産で宝です。会長となって 6 年目ですが、後世に伝えるべく後継者育成が急務です。これで終わりだということはありません。今後 200 年、300 年残るように神楽の基本そのものを伝えたい」と熱い思いを語っていただきました。



布佐神楽発表会の一コマ

地域 紹介



小野寺 明さん

～基本情報～

- ◆自治会長：小野寺 明さん（1期1年目）
- ◆千厩町奥玉地区の西部に位置し、87世帯が暮らす天ヶ森自治会では、結成から30年以上経つ現在でもみんなが参加できる自治会活動に取り組んでいます。

やるならみんなで楽しく！参加しやすい工夫で続ける自治会活動

地域の基本は“地元の力”

千厩町奥玉地区の西部に位置する天ヶ森自治会は、田園風景が広がる中山間地域です。青年部時代から活動を支え、今年度から自治会長になった小野寺明さんにみんなが参加できる自治会活動、これからの地域についてお話を伺いました。

天ヶ森自治会は、昭和57年10月に千厩町内で4番目に結成。その後、住民の寄付や地元出身の親戚、地元企業の協力を得て平成3年3月に念願の自治会館を建設しました。工事の際には完成まで地元の若者が参加し、「地元の力で」という想いで取り組みました。自治会設立から30年以上経つ現在でもまとまりのある活動を続けている天ヶ森自治会ですが、結成前からの取り組みが今でも活動の柱となっています。

会員総参加“親善スポーツ大会”

自治会結成前から取り組み、今年で49回を迎える「親善スポーツ大会」は、未だに会員総参加の一大行事として続いています。赤、青、白のチームに分かれての大会ですが、勝敗にはこだわり過ぎず、みんなが楽しく参加できるよう工夫しています。

種目は、名物のハセ縄リレーでは縄を編んで長さを競ったり、年代別リレーは徒競走ではなくお年寄りの方々が子供の頃に遊んでいた自転車の車輪を棒で転がすやり方にしたり、年代問わず活躍できます。また、「おらはあんだより10歳上だから10m先からスタートな」という顔見知りの仲で行う行事ならではの微笑ましい場面も。参加者は毎年各戸から必ず1人以上出てくるだけでなく、普段は地域に住んでいない親戚や地元出身者も応援に来るので当日は自治会の人口以上に人が集まり、終了後の親睦会まで地域が賑います。

歴代自治会長や商店街で学んだ組織運営

普段は千厩のまちの駅「JaJa馬プラザ」の駅長として商店街で様々な事業に取り組む小野寺さん。そこで学んだ人を集める工夫や会議の運営等を、自治会活動にも反映させようと取り組んでいます。

たくさんの方が関わる行事をスムーズに運営するには、直前の集まりだけでなく事前の打ち合わせが大事だと感じ、今年度から役員や班長を集めての定例会を毎月開催し、前月の振り返りと次の事業の打ち合わせをするようにしました。最初はなかなか人が集まらなかったのですが、参加した人からは「楽しかった」という感想があり現在は人も増え、定着しつつあります。「集まる回数が増える分楽しい会議にしたい」と話す小野寺さん。今後も、単独では活動が難しくなってきた子供会と自治会の連携や組織体制の見直し等、よりよい形で活動を続ける方法を考えています。

商店街や歴代の自治会長から学んだことは、「会議や行事に来なかった人を責めないこと」。「それぞれ事情があるし、天ヶ森も人口減少等、他の自治会と同じ課題を抱えているが、『誰々はいつも来ない』『人が集まらないからやめてしまおう』と愚痴るよりどうすれば来てくれるか考えた方が楽しい。自分の任期中に地域の手作りのお祭りも開催してみたいね」と語る小野寺さんのチャレンジはまだまだ始まったばかりです。



34年振りに優勝した昨年の奥玉地区大運動会

企業 紹介



場長 菊池 公一さん

～基本情報～

- ◆場 長：菊池 公一 さん
- ◆連絡先：〒029-0711
一関市大東町大原当摩 1-87
- ◆電 話：0191-77-2031
- ◆F A X：0191-77-2339
- ◆ホームページ：<http://www.frieden.jp>

次世代へつなぐ地域循環型農業の確立

豊かな自然に包まれた”フリーデン牧場”

昭和 35 年、農業兼養豚を営んでいた個人事業主 5 名が、神奈川県平塚市に（株）フリーデンの前身となる曾我の屋養豚（株）を設立。日本初の一貫養豚経営に着手した同社は、高度成長期と重なり養豚業に必要な農場の確保が難しくなり、昭和 45 年頃から環境の良い県外、特に東北地域での農場確保に乗り出しました。

一関市大東町大原地区に、東京ドーム 23 個分の面積を誇る大東農場が建設されたのは、昭和 52 年。当時の大東町長が企業誘致に積極的であったことや、自然環境に恵まれていることなどから、同町内に養豚農場を開設。

その後、社名変更や一関市内の種豚センター等新設があり、現在は東北と北関東に 10 カ所の種豚牧場および肥育牧場を展開し、年間 27 万頭の供給体制を確立しました。現在、大東農場では飼育施設 38 棟、養豚 2 万 3 千頭の飼育を行っています。

世界にも評される“やまと豚米らぶ”^{マイ}

平成 16 年、地域循環型農業推進のため国内でもいち早くそのプロジェクトを立ち上げた同社。「平成 14 年頃だったかな。当時の町長が、地域の後継者不足による農業の衰退や耕作放棄が目立ち始め『なんとか、地域の休耕田を活用できる案はないだろうか？農業に活気を取り戻せないだろうか？』と相談されたのは」と当時を振り返るのは、同社大東農場の場長である菊池公一さんです。

“やまと豚米らぶ”というブランドは、大東町内中山間地の休耕田を利用して町内契約農家が飼料米を栽培し、その飼料米で育てた食用豚。飼料米をつくる工程で使用される堆肥は農場から出る排泄物を原料にし、契約農家には無料で提供しています。

地域課題の提案を企業が課題解決のために立ち上げた

プロジェクトは、産・官・学協同で研究を進め、地域循環型農業として確立し、町内 26 組合（1 組合 5～10 名）が生産契約を結びました。平成 24 年には、このことが休耕田の荒廃を防ぎ農地再生と地域の活性化、そして次世代の担い手づくりへ貢献しているとして、農林水産祭にて天皇杯を受賞。さらに、平成 27 年 iTQ i（国際味覚審査機構/本部・ベルギー）の審査会で優秀味覚賞「三ツ星」を獲得しました。

同社のパンフレットを拝見すると、“やまと豚米らぶ”の紹介では、大東町の風景や田植えから稲刈りの様子などの写真が掲載されており、全国、世界の消費者に地域情報も発信しています。

全てが役立つ地域循環型

一関市民憲章推進協議会が主催する花いっぱいコンクール。同社では、大東地域と東山地域に堆肥の無料配布を行っています。「生き物を扱う職場ですから、排泄物は必ず出ます。それをどう有効的に取り扱うか。私どもは、近隣町村に提案してきました。町内産の飼料米を食べて育っているのだから、肥料にしても良質。実際使用いただいている地域から『花の育ちがいい』と好評を頂いています」と語り、「東山地域の農業祭では野菜栽培用の肥料として格安販売しており、こちらも人気」とのこと。売り上げの半分は「地域イベントに役立ててほしい」と、寄付をしています。

最後に、「今後も地域のイベント出店や肥料の提供など企業として地域に携わって行きたいと思う」と今後の抱負を語っていただきました。



冬は雪が下の方で降っているかのように見えるとか・・・自然豊かな農場です



センターの〇〇!

— 月初会議ではこんなことを話し合っています —

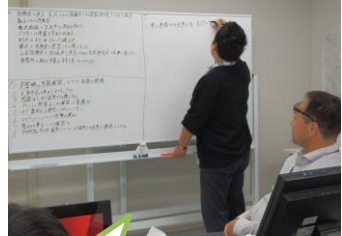
私たち“いちのせき市民活動センター”スタッフは、毎月上旬に月初会議を行っています。会議では、前月の反省を踏まえた改善案や各地域の市民活動団体・協働体組織の動き、一関事務所や千厩サテライトの出来事などを共有しています。また、ファシリテーターとして各地域にお邪魔している私たちは、地域の方々がどのようにすれば有意義な話し合いができるか情報交換をしながら、私たちスタッフの技術も磨いています。



私たちは、前月の振り返りをするとき KPT 法を取り入れています。“KPT”とは、Keep/Problem/Try の略で、「Keep=前月良かった点」「Problem=改善すべき問題点」「Try=改善案、次回試すこと」の3つの枠組みで考える方法です。ホワイトボードが1つあれば、「何を今後も継続し、何をこれから改善していくべきか？」をスタッフ全員で共有しています。

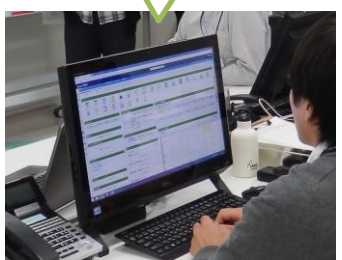
6月の月初会議内容の一部
【P】ワークショップの会議設計を依頼されたが、組織の思いと相違点が発生。みんなは、どういうところに気をつけて会議設計しているの？
【T】役員方と十分に話し合い、目的を明確にすること。依頼側が「何を望み、どこを落としどころにしたいか」要望を聴き取ろう！

7月の月初会議内容の一部
【P】ワークショップで話の流れが止まった時、ファシリテーターとしてどのような対応をした方がいいのだろうか？みんなはどうしてる？
【T】私はそういう時、いったん休憩を入れたり、まったく違う話題に切り替えて話し合いの雰囲気や和らげるよ。



会議資料の共有は、パソコンを使用し、ペーパーレス会議を実施しています。

月初会議では、ファシリテーターとしてみんなの意見をまとめる新人の及川君です。



みちのくワークショップフォーラム 2015 開催のお知らせ

今年も、さまざまな分野で活躍されている講師が、12月5日(土)一関市の“なのはなプラザ”に大集合します!!
「自己啓発」「より良いチームづくり」「話し合いの進め方」「まちづくりの進め方」など実務的な手法を身につけることができる内容となっており、あなたの活動が、さらにパワーアップすること間違いなしです!

- 1、主催 一関市・いちのせき市民活動センター
- 2、日時 平成27年12月5日(土) 9:00~18:00
- 3、場所 なのはなプラザ3階(受付は2階 8:30~)
- 4、参加料 2,000円(午前のみ、午後のみ参加の場合も同金額)
- 5、お申込み・お問い合わせ先 いちのせき市民活動センター

申込締切は11月10日(火)、専用の申込み用紙の他、当センターのFacebook やメールからでも申し込みが可能です。

おしらせ

センター

まちづくりコーディネーター 養成講座

第5回となる今回の講座は、広報誌の作り方について。事業の周知・報告には広報誌やチラシの作成が有効です。各種情報をより分かりやすく伝えるためのコツやポイントをお伝えします。

【日時】平成27年11月7日(土)9時20分~12時

【場所】なのはなプラザ4階共同会議室

【料金】2,000円(全6回)

【問合】いちのせき市民活動センター

【電話】0191-26-6400

センター

Hana 金!

参加者同士の自然な会話・交流の中で、お悩みの解決策を探ったり、企画を膨らませたりしていく、新しいようで自然な空間です。誰でも自由に参加できます。話したい人はもちろん、聞きたい人も!今回は「成果自慢大会」♪

【日時】平成27年11月20日(金)18時45分~21時

【場所】せんまやサテライト

【料金】300円(コビル・ドリンクつき)

【問合】せんまやサテライト

【電話】0191-48-3735

センター

みちのくワークショップ フォーラム 2015

実際にワークショップの達人たちの技術を体感し、より有用な手法を身につけていただく機会として、1年に1度、ここ一関にお集まりいただいています。あなたの活動をパワーアップさせるヒント盛りだくさんな空間へ、ようこそ!

※事前申し込みが必要です。

【日時】平成27年12月5日(土)8時30分受付開始

【場所】なのはなプラザ2階(受付)

【料金】2,000円

【問合・申込】いちのせき市民活動センター

【電話】0191-26-6400

一関

一関市女性センター チャリティバザー

一関市女性センターでは、家庭にある退職品を持ち寄り即売し、その利益を社会福祉協議会に寄付することにより、福祉に役立ててもらふチャリティバザーを開催します。繊維製品、陶器類、日用雑貨、食料品などを取り扱います。

【日時】平成27年11月28日(土)10時~12時

【場所・問合】一関市女性センター

【電話】0191-21-2145

【料金】入場無料

千厩

そばで健康な郷づくり事業 新そばまつり

ビタミンや食物繊維が多く含まれ栄養価が高いそばの良さをアピールするイベントを行います。健康についての講話、歌謡ショーの他、先着200名様に地元の子供達が種まきをしたそばを使った手打ちそばのお振舞をします。

【日時】平成27年11月8日(日)10時開会

【場所】大平集落センター(千厩町奥玉)

【料金】無料

【問合】そばで健康な郷づくり事業実行委員会

【電話】0191-51-2005(佐藤)

一関

グルグルまきまき ミイラになろう

さくらなみき自閉症美術館では、北上市でクレヨンカフェを主宰しているアート療法士の嶋田さんを講師に招き、トイレットペーパーを利用したワークショップを開催します。「自分がミイラになる」などのメニューをお楽しみに!

【日時】平成27年11月8日(日)11時~16時

【場所】さくらなみき自閉症美術館

【料金】子ども一人500円(3歳~)

【問合】さくらなみき自閉症美術館

【電話】0191-48-3622(加藤)

全域

市内イベント一覧

<p>インディアカ体験講座 【日時】平成27年11月4,11,18,25日の19時~20時30分 【場所】狐禅寺市民センター体育館</p>	<p>ポールストレッチ講座 【日時】平成27年11月6,13,20,27日19時~20時30分 【場所】一関勤労青少年ホーム軽運動室</p>	<p>ウィーン・ピアノ五重奏団 【日時】平成27年11月8日(日)14時 開演 【場所】一関文化センター中ホール</p>
<p>一関市女性センターまつり・展示発表 【期間】平成27年11月14日(土)~15日(日) 【場所】一関市女性センター</p>	<p>いちのせきサイエンスカフェ 【日時】平成27年11月15日(日)14時~16時 【場所】一関図書館2階</p>	<p>NPO法人会計講座 【日時】平成27年11月19日(木)13時~16時 【場所】一関地区合同庁舎</p>
<p>てんとう虫・展7 【日時】平成27年11月20日(金)~29日(日)10時30分~18時 【場所】ギャラリー彩画堂(一関市地主町)</p>	<p>第13回いちのせき第九演奏会 【日時】平成27年12月27日(日)14時 開演 【場所】一関文化センター大ホール</p>	<p>北上川河川調査船ゆはず(河川調査学習) 【期間】平成28年3月まで 9時~12時/13時~16時 【場所】川崎防災センター/北上川</p>

今月の表紙



第4回目となる一関・平泉バルーンフェスティバル。今回は、2015熱気球ホンダグランプリの第3戦に組み込まれ、10月10日から3日間の日程で開催されました。水辺プラザから24機の気球が次々と離陸する光景、子供も大人もワクワク気分です。

Q&A

あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 10周年のロゴマークにはどんな意味があるの?

A いちのせき市民活動センターは平成27年で10周年を迎えました。ロゴマークには数字の「10」が入っており、また「0」を構成している「スクエア(square)」のそれぞれの「四角形」は一関市内の8つの地域が一つの「広場」を形成している様子を表しています。

